

	課題分析	授業改善策
1年	10までのたしざん、ひきざんの計算は、計算カードを用いて宿題としても毎日繰り返し練習することにより、速くできるようになってきたが、文章問題は、文の中にある数字や言葉の意味を理解して、立式することができない児童が多く見られた。答えを表記する場面で、単位を正確にとらえられない児童も見られる。	○文章問題を取り上げるとき、「分かっていること」「聞かれていること」を確認し、「ぜんぶで」「のこりは」などヒントになる言葉を明らかにして立式させることを繰り返し指導していく。 ○ノートの表記が丁寧に書けるように、具体的に例示する。 ○ブロック等具体物を使って、増えたり減ったりする場面をとらえて操作する活動を意識的に取り入れ、考え方をすすんで発表させる。
2年	「A 数と計算」の領域では、2 位数の構成は概ねできているが、100 までの数の系列や大小の理解が不足している。また、加法や減法を適用して問題を解決する力が低めになっている（正答率38%）。問題文を読み、何を問われているのか、思考力・判断力に課題がある。時計を読めない児童が一定数見られる。短針の読みのつまずきが多い。授業では、問題を読んで既習事項を活用した自分の考えを表現することが難しい。	○位取り表や半具体物の操作を通して、数の量感をつかみやすい授業を展開する。 ○文章問題の場面では、図を描くなどして文と式の関係性を整理しながら指導する。 ○単元の時数を増やすなどして、児童の実態に合わせた指導を行う。 ○日常的な活動場面で、時計を読む等具体的な活用経験を促す。
3年	「図を使って考える」問題の正答率が24%と低くなっている。数量の關係に着目し場面を図に表す力、さらに構造をとらえて問題解決の仕方を考える力が不足している。また、「長さ」や「水のかさ」の単位の問題では、下位単位と上位単位との關係性を忘れてしまっている児童が多く見られた。表やグラフの作成では、落ちや重なりに気を付ける工夫がなくミスが増えてしまっていた。	○朝の学習タイムを使い、昨年度の問題を繰り返し復習させて定期的に思い出させる。 ○「ぜんぶで」や「のこりは」などの、式を立てる上でのキーワードとなる言葉に線を引かせるよう意識させる。 ○学びポケットなどのデジタルコンテンツを活用して、図を使って考える問題等の苦手な単元に繰り返し取り組ませる。
4年	「A 数と計算」の領域では、3 位数かける2 位数の筆算の正答率は36%である。また、数量の關係を表す図や式に未知の数量を表す□を用いることができていない児童が多く見られた。「時刻と時間」では、ある時刻から一定時間前後の時刻を求めることが難しいようである。「D データの活用」では、データを表に正しく整理する際に躓いてしまう児童が一定数いた。その結果、正しくぼうグラフに表すことができない児童も多かった。	○朝の学習や家庭学習等を通して、計算技能の定着を図る。 ○問題場面の数量の關係を図（テープ図や線分図など）に表す活動を取り入れ、図と式を関連付けられるようにする。 ○各教科の学習においてデジタルタイマーを活用するだけでなく、アナログ時計を用いて「あと○分」「○分前」といった残り時間や経過時間を可視化して示す。 ○数え間違いや漏れを防ぐために、「斜線で消しながら数える」「チェックリストを活用する」などの具体的な作業手順を指導し、データを正しく表に整理する経験を重ねさせる。

5 年	「A数と計算」小数×整数は57%の正答率に対し、小数÷整数の正答率が39%であった。特に課題となるのは、「B図形」の領域。複合図形の面積、ひし形の作図、直方体の面や辺の位置関係の正答率がいずれも25%前後と低い。複合図形を構成している長方形に着目し、工夫して面積を求めることが苦手である。また、立体の辺と辺、面と面の並び方や交わり方への理解・知識が不足していると考えられる。	○わり算の計算では、商の見当をつけることに課題が見られている。学習タイムなどで問題数をこなしていく。小数のわり算では答えが大きくなることを関係図や数直線を用いて、理解を促す。 ○図形の問題では、問題を把握するときに、色鉛筆などで同じ辺や角度などをマークして、視覚的に図形を認識できるように指導する。また、用語の理解が不足しているため、既習事項を何度も繰り返し復習しながら、問題解決を目指すようにする。
6 年	全体の傾向として、「C変化と関係」の領域を苦手としている児童が多い。人口密度を求める問題の正答率が2.3%であった。誤答の内容を調べると、無解答の児童が32名いた。立式のミス、計算ミス、四捨五入のミスもある。無解答の原因としては、「人口密度」の意味、求め方が理解されていなかったり、忘れてしまったりしていると考えられる。また、割合や百分率、円グラフの問題でも一定数の無解答が見られている。基準量と比較量の関係を再度明確にしていく必要がある。	○問題の意図を読み取り、解決方法を図や式に表し、自分の言葉で説明させる活動を増やす。これらにより、理解の曖昧さを明確にし、理論的な思考力を育む。特に、「割合」の学習では、数直線を書かせることで、問題の把握を促す。 ○簡単な数字を使った本時の課題から始め、最後に適応問題に取り組みせることで、どのような数であっても問題解決を目指せるようにする。 ○学習したことを繰り返し復習することで、既習内容を忘れないように定着させる。